☆平成31年度（令和元年度）☆☆☆☆☆☆

YURIKAGO通信

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆《5月号》

H31.4.25　　東京ゆりかご幼稚園

２週間を経て

本年度がスタートし、２週間が経ちました。新入園児さんも園に慣れ、徐々に活動の範囲を広げ、今は園庭の隅々まで笑い声が響いております。特に春の園庭では、かわいい草花や、小さな生き物が活発に動き出す様子に出会い、先生や友だちと発見と感動を繰り返しながら、互いに気持ちを通わせ、仲よくなっていく様子がみられます。

年中・年長の進級児さんは、１人１人が「小さな先生」になって、新入園児さんの手をとり教室まで連れて行ってあげたり、わからない事を教えてあげたりするなど、とても頼もしい様子が見られます。

クラス内の関係が作られていくと同時に、徐々に他のクラスや他の学年との交流を通して、幼稚園の皆が助け合い、協力し合い、仲良く過ごしていけるようになっていきます。こうして「互いを思いやる気持ち」が園全体に広がっていく事を願っています。

明日から、ゴールデンウィークが始まります。特に今年は期間が長いため、生活のリズムを崩しやすく、連休明けの園生活に影響がでることも心配されます。ご家庭におかれましては、どうぞ規則正しい生活習慣が維持されますよう、ご協力をお願い致します。

時代の節目に

八王子市より、幼稚園協会、保育園協会など各種団体に、今月23日の「天皇・皇后両陛下による平成最後の多摩御陵ご参拝」への奉迎（沿道お迎え）のお知らせがあり、年長さんが参加してきました。当園はセントベル幼稚園さんに園ﾊﾞｽを駐車させて頂き、同幼稚園のお友達と一緒に沿道でお迎えしました。両陛下の乗られた車は、子ども達に気がつくと、減速して目の前を通られ、微笑みながら手を振って頂きました。子ども達も「手を振ってくれた！と」喜んでいました。

実は昭和の終わり頃にも、初代園長・副園長が引率して陵南公園に園外保育で出かけた際、天皇陛下が御陵に入られるところに偶然立ち会い、手を振って頂いたそうです。これは卒園生から聞いた話で、当時、年長さんだったその卒園生は今でもその光景を覚えているそうです。言葉や理屈ではなく、「（節目の）その時、その場にいた」という幼少期の記憶は、本人にとっても大きな意味を持つのでしょう。

平成の終わりに、再び年長さんが天皇陛下にお会いし、手を振って頂けたというのも、時代の巡り合わせを感じます。ほんの一瞬の出来事ではありますが、きっと今の年長さんにとっても、忘れられない思い出になるのではないでしょうか。

いよいよ平成から令和へ、、、新しい時代が始まります。

＜園長＞

～こいのぼり～

水車小屋の横に１０ｍの「鯉のぼり用のポール」が設置されました。これは３月に卒園された卒園生の方から寄贈・設置された物です。「屋根より高い鯉のぼり～♪」という童謡の歌詞のとおり、ちょうど今、新緑の森を背に色鮮やかな鯉のぼりが元気に泳いでいます。初日は全園児で舞い上がる様子を見守りました。園児もこれを見ながら鯉のぼりの制作を楽しんでいます。ありとうございました。大切に使わせて頂きます。

～給食の充実～

子どもの健康のために、おいしい給食を作って下さる調理員さんをご紹介します。毎月お渡ししている「献立表」の他、畑でこどもたちが収穫した野菜を美味しく調理して給食に入れて下さっています。また、今年度も畑の活動に「お花野菜クラブ」の保護者有志の方々にご参加頂き、野菜の栽培を更に充実させていきたいと思います。よろしくお願いします！

写真の左から、菊池さん、吉川さん、
橋本さん、井本さん、伊澤さん、赤川さん

４月の様子

～対面式～

ホールに全園児が集まりクラスの紹介や歌遊び。年少さんには「オシロイバナ」の種をプレゼント！　きれいなお花を咲かせてね！　最後は年中さんが作った道を通り、年長さんが年少さんをクラスまで送ってあげました。これから仲良く遊びましょうね！

～年少さん～

砂遊び、朝の会、こいのぼり制作、お弁当、給食、、、できる事が日々増えています！

～春のいろいろ～

モルモットの名前はショコラに！　虫を図鑑で調べ　枝豆の種まき　てっぺん広場でお弁当！

～年長　お米作りスタート「塩水選～種もみまき」～

8ヶ月にわたるお米作りがスタート！ コップに卵が浮く程の塩水を入れ、そこに昨年とっておいたお米の「種もみ」を入れます。水に浮いた種もみは使用せず、沈んだ種もみを使用します。
次に、種もみを真水につけて数日間芽出しをし、18枚の育苗箱に蒔きました。 こうして稲作の地道な作業が続いていきます。

※これから活動が盛んになってくると、行事予定表や園外保育のお知らせに載っていなくても、その日の気候や、クラスの活動、興味によって、不定期に園外へ出かけることがあります。森や町のお散歩はもちろん、時には園バスに乗って出かけることもあります。　教育・保育は「生き物」。日々の「しなやかな保育」が時に子どもの日常をより生き生きとしたものに変えてくれます。　もちろん、安全面の確認や配慮の上で行いますので、どうぞご理解をいただきますようお願い致します。

～学年の様子についてお知らせします～

☆年少さん・・・

新入園のお子様も園生活に徐々に慣れ始めたことでしょう。しかし、お子様によっては環境の変化に一生懸命慣れよう、ついていこうと気を張るあまりに、疲れが出たり大泣きをしたり、これまでになくお母様に甘えたりするといった反動が現れてくる時期です。

特に午後保育も始まり、これまでの家庭生活とのギャップに身体も心も少しずつ疲れを感じる頃、帰宅後は心身共に十分に休息を取り、ご家庭の温かな愛情で包んであげて下さい。また、併せて毎日幼稚園に頑張って通うお子様をほめていただき、５月、いよいよ広がりをみせる園生活に前向きに取り組めるよう励ましてあげて下さい。

なお、長いゴールデンウィークには家庭で親御さんの愛情をたっぷりと受け、明けには「家にいたい、幼稚園に行きたくない」といった声も聞かれるかもしれません。４月上旬の様子に戻ってしまうお子さまも多くいらっしゃいます。慌てずにゆっくりと見守っていきたいと思いますので、お子様の様子に変化などがありましたらどうぞ担任までお知らせ下さい。

●道灌山学園の故高橋圭吾氏の言葉を紹介します。参考になさって下さい。

☆ほめ方

①本気でほめる。べたほめは効果がない。
②人がいてもいなくてもほめる。
③ほめるもとは何かはっきり言う。
④ほめられる人の立場でほめる。
⑤ほめる言葉を口ぐせに　「ごくろうさん」「ありがとう」

☆叱り方

①腹を立てて叱るな、怒るのは効果がない。
②叱られる身になり、あやまちは叱るな。
③叱る言葉は少なく、くどくど叱るな。
④叱ってはならない時がある（食事の前後、登園前、就寝前）

☆注意することよりほめること七題

①物言えば　注意の言葉　多く出て　叱り言葉と　まちがえられる。
②幼児には　注意を多く　していれば　よい子になると　思うまちがえ
③よい時に　しっかりほめる　事がよい　ほめられただけ　よい子になれる
④子育ての　上手の仕方　身につけて　よい事見つけ　忘れずほめる
⑤悪い子に　なりそうな時　手伝いを　しっかりさせて　たくさんほめる
⑥注意より　ほめることには　効果あり　身近のことを　たくさんほめる
⑦ほめること　叱ることとを　比べると　ほめる効果は　何倍もある

※言うまでもありませんが、「叱るべき時に何も叱らない」ことはもっといけません。
何事もバランスが大切ですね。

☆年中さん・・・

年中さんは、年少さんとの環境の変化に戸惑いを見せ不安になったり、活動の幅が広がるとともに友達との関係が深まっていく過程で、今までと違った様々なケンカも出てくる時期です。幼稚園生活３年間の中で、最も難しくまた大切な時期であるといっても過言ではありません。しかし、この時期の様々な葛藤が成長の証でもあり、周囲の大人が無理にこども同士の関係を引き離したり、避けてやり過ごすことは、子どもたちにとって何の解決にもなりません。子ども自身が正面から取り組み、頑張って乗り越えていこうとする姿を見守り、勇気づけ、そっとサポートしていくことが大切と考えます。我々保育者も子ども達の「自分で向き合い、乗り越えようとする力」を信じサポートして参ります。

☆年長さん・・・

幼稚園生活を通して大きく花開く時期。特に２学期の運動会、３学期の生活発表会のように、クラスの皆で力を合わせて何かを成し遂げるという協同的活動が活発になり、その過程では協調性や思いやりなどを伴った“集団における問題解決能力”が大きく育っていきます。

また、身体能力と並行して「少しのことでへこたれない」精神的な強さ、逞しさ、忍耐力が育ってきます。更に、自然の変化や生き物等への関心も、感覚的に捉えるだけでなく、科学的な視点から観察したり、探求心を持って調べたり、自分なりに筋道をたてて考えることができるようになります。こうして徐々に小学校へ向けた土壌が完成されていきます。

子どもの伸びようとする可能性を信じ、勇猛果敢にチャレンジする精神を応援しながら、活発な園生活を促してあげたいと思います。